

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第214号

ななえ古写真物語

VOL.214

聖なる山

峠下聖山遺跡の発掘調査

昭和50年ころ

峠下地区



Nanae Historical
Museum Collection

聖山遺跡。七飯町峠下地区にある遺跡で昭和48年から52年にかけて、東北大学や北海道大学、七飯町教育委員会が主体となって発掘が行われた遺跡である。

七飯町においては、初の大規模発掘だったことや、出土した土器の文様などから「聖山式土器」という型式設定がされ、道南地域の縄文時代晩期における、土器の移り変わりが解明された遺跡として、研究者の中でも重要な遺跡と認識されている。場所は、現在賑わいをみせている「道の駅ななえ・ななえ」よりも山側にある、電源開発（株）函館変換所のある所だ。

かねてよりこの場所は、土器や石器が拾えることが知られていたのだが、昭和30年頃に、軍川駐在所の警官だった熊野喜蔵氏によって、小澤畑（長万川）遺跡という名称で、土器や石器の収集が行われたのが、聖山遺跡における初調査と考えられている。その成果の一部は、熊野コレクションとして、現在も北海道博物館で所蔵され、地域の研究資料として大切に保管されている。

また、峠下地区の人々の間でも、この辺りで土器が見つかることは知られていたようで、郷土史家の長川清悦氏（前歴史館館長）も、若かりし頃から、熊野氏と一緒に土器探しをしたと語っている。

その遺跡が、変換所建設の動きの中で、一部に大型のブルドーザーによる整地作業が行われていることが発覚、遺跡の保護の観点から、教育委員会は工事中断の指示を出し、緊急発掘調査が行われることとなり、昭和48年10月に東北大学の芹沢長介氏を団長とする調査団が組織され、翌49年まで調査された。また、昭和51年から52年にかけては、吉崎昌一氏を中心とする北海道大学によって調査された。上の写真は、どちらの大学で行われたか不明のため、昭和50年ころとしたが、聖山遺跡の調査風景を切り取ったものとなる。

以後、50年ほど経過した現在、新たな調査成果も積み重ねられ、より詳細な土器編年が確立したが、道南における縄文晩期といえば「聖山」という名が今も根付いている。発掘された土器などは、当館の常設展示室で見ることができるが、それは一握りでしかない。この冬には、改めて聖山遺跡の評価を考え、当館において特別展を企画し、目下準備中である。興味のある方は、ご観覧いただければ幸いである。

ところで、今も昔も七飯町の地図上には、「聖山」という地名は明記されていない。遺跡名の出自が定かではないのだ。聖人が登った山だとか、ひじり山と呼ばれていたという伝承は残っているが、明確ではない謎めいた遺跡なのも、その魅力なのかもしれない。

4日 夜の博物館第4夜

最終夜は、写真家の野呂希一氏を講師にお迎えしました。テーマは「風景と言葉で感じる日本の暦」。ため息がでるほどの160点の写真は、光や色、時間を野呂氏の視点で捉えた、目も潤う、うっとりする風景ばかりでした。季節のズレが、北海道と九州では、2ヶ月もあることや同じ季節でも、太平洋と日本海では、全く違う景色が広がっていることなど、普段なかなか見られない違いに驚きました。すごいカメラである必要はない。楽しく撮ればいいと、愛用のカメラを手に話す、野呂氏の姿が印象的でした。



6日 ジュニア探検クラブ特別回

この日は町内で行われていた、弘前大学の発掘にお邪魔し、体験発掘を行いました。移植ごてを手に持ち、遺構のなかに入り、大学生のお兄さんとお姉さんの優しい指導のもと、根気強く、掘り進めていきました。土の中から土器の破片の一片が見つかったと、目が輝く子どもたち。大きな破片を見つけると、うれしそうに見せてくれました。普段はできない体験をするのが、ジュニア探検クラブの強み。いい思い出になったのなうれしいです。



27日 ジュニア探検クラブ

青空の下、駒ヶ岳登山を行いました。登山道はかなりえぐれていて、上りも下りも予定時間はオーバーしましたが、みんな頑張って上りました。植物を見ながら、石を見ながら、ただ頂上を目指し、てくてくと歩きました。馬の背では、大きな岩の上で昼食を食べる子どもたち。強い風が吹くのもなんのその。下山中は、走りながら降りる登山者を横目に、自分たちもやってみよう！と言うのを止めるのに大変でした。いやはや、子どもたちは疲れ知らずです。



1	土
2	日
3	月 文化の日
4	火 休館日
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月 休館日
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月 休館日
18	火
19	水
20	木 ピチャリ第214号発行
21	金
22	土
23	日 勤労感謝の日
24	月 振替休日
25	火 休館日
26	水
27	木
28	金
29	土 ジュニア探検クラブ
30	日

※休館日：4日、10日、17日、25日

でんぷんを作る道具

でんぷん、これらは、常設展示室「秋」のコーナーにあります。片栗粉は大沼や七重園でも作っていました。



編集後記 ～tawagoto～

博物館のアクセシビリティについて書かれた新聞記事を読んだ。誰もが行けて、安心して楽しめる博物館とは…。と考えた。展示の工夫も必要だろう。キャプションでは、ふりがなを今までより増やしたり、企画展示では、よりわかりやすい表現にすれば、誰でも楽しんで見てもらえるかも知れない。たいせつなのは、お客さんの立場で、考えるということ。問題は山積だが、博物館の魅力は、常に発信していきたいと思う。

Pichari ～ピチャリ～

第214号

令和7年（2025年）10月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp